

化学工業日報

2016年(平成28年)

3月30日 水曜日

第23294号(日刊、土・日・祝日除く)

防滑樹脂を拡販

中和化学薬品 スポーツ施設や工場向け



野球場の2年度ある実績の、このほど改修が行われ、目の施工を実施した

中和化学薬品(東京都中央区、今尾晋介社長)は、防滑樹脂の販売を本格化する。特殊ウレタンなどに骨材を混ぜたもので、階段に塗布し滑り止めの機能を果たす。テープタイプに比べ耐久性が高く、速乾性も兼ね備え

るため施工性にも優れる。このほど野球場で採用され、こうした実績をテコに他のスポーツ施設や各種製造工場への提案を強化する。2020年の東京五輪に向け需要が期待できるほか、同年まで整備目標とするバリ

アフリー法に対応、視認性を高める段差識別商材としてもアピールする。防滑樹脂「マルチクリップ」は粘着製品などを手掛けるホリコー(神奈川県川崎市)が製造する。主に駅構内やショッピングセンターなど利用者の多い階段に施工されており、昨年には川崎市の「もりのつくりブランド」にも認定された。

また速乾性を兼ねるため施工後から約1〜3時間で乾燥硬化する。色は基本の6色に加え、オーダー色にも対応可能。用途に合わせて材質の異なる2種類をラインアップする。階段用途で線状に塗布するハードタイプは特殊ウレタン系樹脂、面状で広範囲に施工できるラジタイプはポリカーボネート樹脂を採用。それぞれ骨材に高純度アルミナを配合する。骨材は素足で利用するプールなど利用シーンに合わせて粒径を使い分ける。中和化学薬品では野球場で採用実績があり、このほど同球場の改修に合わせて2度目の施工を実施。今後もスポーツ施設を中心に提案し、東京五輪で使用される競技場などの需要を取り込む考え。そのほか取引先のメーカー工場でも実績があり、とくに食品工場での採用が進んでいる。無溶剤のマルチクリップは無臭で、におい移りしないメリットがあるため。20年を施工目標とする

バリアフリー法にも対応できる。同法は人が集まる施設で円滑な移動を確保するため、段差の識別や滑りにくい床材への変更を推進する法律。視認性と防滑性を兼ねた商材として提案し需要を開拓していく。